

高卒求人票の公開時期について

1 公開時期の見直しへの対応（案）

以下の内容により、令和8年度卒業生の就職活動から適用。ただし、(3) ③は令和9年度から実施予定。

(1) 高卒求人票の公開時期の前倒しは、生徒による企業研究の時間の確保や企業の人材確保の可能性向上に寄与し、教員や企業の人事担当者の業務に余裕が生ずる効果が期待される一方、生徒の学業や学校生活への支障の発生、採用計画の早期策定が困難な中小企業への不利益、求人票の整理と学校行事等の教職員の業務の重複が懸念。

(2) このため、公開時期の前倒しは行わず、現行の7月1日を維持。

(3) ただし、(1) に記した前倒しを必要とする考え方に対する配慮も必要。このため、国として以下を実施。

- ① 職業意識形成支援事業を利用した1・2年次からの企業研究の取組の支援
- ② 求人企業説明会の実施による企業の人材確保の支援
- ③ 求人票のデジタル化による教職員の負担軽減のための取組

2 考え方

① 都道府県高等学校就職問題検討会議の検討結果（別紙「1」参照）を踏まえると、31の都道府県が高卒求人票の公開時期の前倒しに否定的。

② 公開時期の前倒しに肯定的な都道府県は、8県にとどまる。ただし、令和7年7～8月に各都道府県高等学校就職問題検討会議が実施したアンケートにおける回答によると、企業関係者と学校関係者の3分の1強が前倒しを支持。その主な理由は以下のとおり。

- ・ 生徒の企業研究の時間の確保
- ・ 企業の人材確保の可能性向上
- ・ 教員及び人事担当者の繁忙回避

以上を踏まえ、1のとおり、

- ・ 高卒求人票の公開時期は、現行の7月1日を維持することとした上で、
- ・ 前倒しを必要とする考え方にも配慮するため、国による取組に付言するという方向で、結論付けてはどうか。

1 都道府県高等学校就職問題検討会議における検討結果

選択肢	回答数
① 前倒しが必要	1
② 前倒しの必要はない	22
③ その他 (※)	24

※「その他：24」の議論の状況

議論の状況	都道府県数
選択肢①が優勢	7
選択肢②が優勢	9
議論が拮抗	8

2 各都道府県高等学校就職問題検討会議が域内で実施したアンケート結果

令和7年7～8月に各都道府県高等学校就職問題検討会議が、議論の参考のために実施したアンケート結果において、「前倒しが必要」を「前倒しの必要はない」が上回った。

- ・ 企業関係者：「前倒しが必要」は35.9%、「前倒しの必要はない」は64.1%
- ・ 学校関係者：「前倒しが必要」は36.6%、「前倒しの必要はない」は63.4%

3 都道府県高等学校就職問題検討会議における前倒しをめぐる議論

(1) 前倒しを必要とする主な意見

① 生徒が企業研究の時間を確保するため

- ・ 日程の前倒しにより、企業研究や職場見学の時間を確保でき、企業への理解が深まることで、早期離職の防止、人材確保の可能性向上につながる。(経済団体側)
- ・ 現行のスケジュールでは、学期末試験等の業務による繁忙期と重なり、生徒は選ぶ時間が足りないため、前倒しが必要。4月は、担当教員が人事異動で着任後間もない場合、支障があり、6月以降は、大学の指定校の書類が届き、求人票の受付処理が追い付かず対応が困難なため、5月1日からが妥当。(学校側)
- ・ 昨今は前年度の求人と変更が多く見られ、この状況であれば前倒して欲しい。(学校側)

② 企業の人材確保の可能性が高まるため

- ・ 企業は早期にPRを展開できるメリットがあり、前倒しは必要。(経済団体側)
- ・ 前年度の求人での企業研究は、新規求人や内容変更のある企業が不利になる可能性。(学校側)

③ 教員の事務処理の都合

- ・ 企業見学や校内選考、応募先決定、応募書類発送までの期間が短い。夏休み期間中の閉校日や教職員の休暇の問題もあり、早期の公開が有り難い。(学校側)
- ・ 求人票公開の解禁後、学校での受付処理等により生徒への公開までに数日かかる。(学校側)
- ・ 教員としては、生徒に見せないとしても、早めに当年度の求人を把握したい。(学校側)

(2) 前倒しを不要とする主な意見

① 前倒しによって、企業研究の時間が確保されるか疑問があるため

- ・ 求人票が無い状態でも、業界・企業研究やキャリア形成についての学習は段階的に進めることができ、「就職する企業の研究時間の確保」は前倒しの理由として弱い。(経済団体)
- ・ 部活動や期末試験等の学校行事の予定は変更せずに公開時期だけを前倒ししても、企業研究のための時間を確保できるのか疑問。学校行事の時期の見直しも検討が必要。(学校側)

② 学校のスケジュールの都合

- ・ 期末試験、部活動による各種大会等の学校のスケジュールにより、多忙な時期で前倒しによる対応は先生、生徒にとっても難しい。(学校側)
- ・ 3年生の一学期までの成績でどの企業を受けるかを考えた上で、夏休み期間中に応募前の職場見学を実施する、という流れができています。現行の7月1日公開というのは、学校にとってちょうどよい時期。(学校側)

③ 企業の採用業務の負担を増加させないため

- ・ 公開時期を前倒すと大卒の採用時期と重なるため採用活動が繁忙になる。(経済団体側)
- ・ 中小企業においては、人が足りない中での採用計画の前倒しは業務負担の増加につながるほか、各学校(各地域)の対応の違いから、都度調整の必要性が生じることなども懸念。公開期間が長くなることで、大企業・人気企業との差が更に広がる可能性。(経済団体側)